



サービス連合

サービス・ツーリズム産業労働組合連合会

第96号

2026年7月1日
毎月1日発行

サービス・ツーリズム産業労働組合連合会
〒104-0042 東京都中央区入船3-1-13 入船ニッコンビル6階
TEL 03-5919-3261 発行人 石川聡一郎

「2026年度の重点政策」の実現にむけて 中央省庁・業界団体に政策要請を実施

サービス連合は、「サービス連合の政策（政策集）」を策定し、その中から優先的に取り組む重要なものとして取りまとめ、その実現にむけて、4月より各政党や関連省庁などへ要請行動をおこなうなど、関係各所への働きかけをおこなっています。5月には、厚生労働省や業界団体（3業種7団体）へ要請行動をおこなしました。

厚生労働省

5月18日におこなった厚生労働省への要請行動では、重点政策に掲げている「長時間労働の是正を通じた生産性の向上」、「従業員のプライバシー保護にむけて」、「育児休業取得率の向上について」など、労働政策や社会政策に関する項目について要請し、意見交換をおこないました。特に長時間労働については、裁量労働制議論への懸念や2,000人が回答したサービス連合「健康と労働に関するアンケート」の結果を基に、サービス・ツーリズム産業における長時間労働の状況や休日数が少ない現状を説明し、長時間労働の是正につながる施



5月18日
厚生労働省

策の推進を求めました。また、育児休業取得率の向上においても、男性の育児休業取得率等の公表については1日だけでも取れば取得率に加えられることになっていることから、より取得しやすい環境を後押しする施策へ変更する必要性を伝えました。

業界団体

3業種7団体の各業界団体に對しては、重点政策への理解と推進の協力を求めるとともに、会員各社への周知などを要請しました。立場は違いますが業界団体と目指す方向性は同じであり、産業の課題解決と持続



5月19日
一般社団法人
日本旅行業協会 (JATA)



5月15日
一般社団法人
航空貨物運送協会 (JAFA)



5月15日
全国旅館ホテル生活衛生
同業組合連合会 (全旅連)



6月1日
一般社団法人
日本旅館協会



5月27日
一般社団法人
全日本ホテル連盟 (ANHA)



5月21日
一般社団法人
日本ホテル協会



5月19日
一般社団法人
全国旅行業協会 (ANTA)

可能な発展にむけて引き続き連携していきます。私たちのサービス・ツーリズム産業は平和産業であり、重点政策にも「世界平和にむけて」を掲げています。中東情勢など国際社会が不安定な状況であるからこそ、国際平和にむけた取り組みが必要で、何よりも世界平和を希求する産業として、引き続き業界団体とも連携していきます。

国土交通省との懇談会を実施 「サービス連合の政策」の実現と フォワードの課題解決にむけて意見交換

6月2日(火) 第4回物流政策委員会において、国土交通省(物流・自動車局、航空局)との懇談会を実施し、物流政策に関する意見交換をおこないました。今回は「サービス連合の政策（政策集）」の中から「各空港の課題」について、航空局の各空港担当者より回答を受け、その後質疑応答・意見交換をおこないました。

成田空港の課題では、トラックドックマネジメントシステム(TDMS)の運用課題、航空上屋の作業時間短縮について、新しい成田空港構想を踏まえた貨物地

区整備、羽田空港の課題では朝の通勤時間帯の公共交通機関混雑の解消、中部空港の課題では災害発生時の対応、関西空港での課題は歩行者の安全対策、荷物搬出時の混雑について、制限区域ゲート混雑について、航空貨物地区での荷物積み込み、積み降ろしについて、災害発生時の対応、貨物地区内施設の改善について、福岡空港では、業務円滑化と労働環境改善について、それぞれ回答を受けました。

羽田空港へのアクセスについては、旅客とそこで働く人によって交通手段が集中することから、混雑、遅延が発生しています。JRアクセス線や京急線の引上げ線開業にむけて国や東京都が2030年初頭の開業を目指しており、状況を注視していきます。

福岡空港は、空港の特性上、国内線と国際線が滑走路を挟んで対面に設置されているため、円滑な輸出入にタイムロスやリードタイムの延長などの課題が発生しています。集中する時間帯には人手を確保して対応しているとのことでした。空港の構造上の課題はあるものの、突合時間の不便さを解消するための様々な意見を伝えていきます。



2026年2月から運用されています。ドライバーの荷待ち時間を減らし、スムーズな輸出貨物の受け取りができるよう取り組みが始まっています。ただ、現場での課題が多く、フォワードとしても課題を感じています。引き続き上屋会社への継続したシステム改善を求めています。また成田空港の改修工事に併せて、貨物地区の整備も検討されていますが、滑走路予定の用地

中部空港、関西空港はとくに海に面した空港であり、政策では大規模災害等の発生時に避難できる高台等の設置を求めています。空港ごとにA2-B-C-P(災害時における空港の早期復旧と利用者の安全確保を目的とした空港事業継続計画)が作成されており、現場で働く労働者のことも踏まえて運用と万が一に備えての訓練がなされているとのことですが、利用者の安全確保とともに、そこで働く者の安全確保も重要です。また近年、自然災害も大規模化しています。南海トラフ地震の発生も想定される中で、働く者の安全確保についても引き続き提言して

フォワード業においては、ひとつの荷物を輸出したり輸入したりするために、複数の事業者が関わり、クリアしなければならぬ場面がいくつも存在します。円滑な輸出入手続きには空港で働く仲間や荷物を運ぶ運送業の仲間と連携しなくてはなりません。一つ一つの課題をクリアにし、スムーズに業務ができるよう引き続き国土交通省をはじめ、関係各所と連携して職場の声を届けていきます。

きます。

ける一方で、組合員の生活苦は改善されず、離職意向者も散見されます。来春の春季生活闘争でも賃上げという方向性を堅持したうえで、その他の課題についても要求を組み立てていく必要があると思っています。賃上げだけでなく、丁寧に幅広い分野にわたった要求を組み立て、誠実に交渉していくことが大切だと考えています。

和田業種別委員長

すでに来年の闘いは始まっています。次にむけて「基幹産業とは何か」をしっかり言語化するべきだと思います。私たちは社会的使命を担っているということ、社会に力強く訴えていくことで、国民も納得し、政府の補助金支給等、産業の後押しとなる施策の推進などにもつながると思います。会社が言う「労働生産性」が何を意味するのかということに真摯に向き合い、今まで以上に労使がコミットしなければ、今後の春季生活闘争の成功はありません。業界団体とも密に連携したうえで、産別として更なる社会的発信力を持ち、基幹産業が何たるかを認識して幅広く発信していくことで、産別が生み出す「空気間の醸成」をはかり、社会的重要性を強く訴えていくことが不可欠だと思います。

蛸谷業種別委員長

まだ合意・妥結に至っていない加盟組合もあり、交渉が例年より長期化している状況は、それぞれの加盟組合が粘り強く交渉ができています。賃上げのノルムを確

立するために、まずはこの2026春季生活闘争を最後まで闘い切ることに全力を注ぎたいと思います。

2027春季生活闘争も、今までの流れを止めることなく引き続き闘争委員会などをつうじて情報交換をし、加盟組合間の連帯を密にすることで業種全体が良い結果を残せるように先頭に立ち、自ら旗を振っていきたいと思います。

対談を終えて



宇高会長代理

今回のアンケートをふまえた対談では、各業種のさまざまな特徴や課題がみえてきました。それぞれの代表者からは、2027春季生活闘争にむけて、産別に対して機運醸成を求める強い期待が伝わるとともに、課題解決にむけ自らが先頭に立ちけん引していくという力強い意思も感じられました。

また、産別として統一闘争をおこなう意義を再度見つめなおし、賃上げをはじめとする総合労働条件向上のための「空気間の醸成」が責務であることが再認識できました。

サービス連合は、産別が主体となってアンケート調査に取り組み、経年での比較に基づいた要求策定や交渉への臨みが重要であると強く発信するとともに、結果からみえてくるさまざまな課題に真摯に向き合い、魅力ある産業であり続けられるよう、労働運動をけん引していきます。

第2回総対話・第3回学習会・第4回業種別交流会を開催

5月に全国7つの地域ブロックにおいて第2回総対話・第3回学習会・第4回業種別交流会を開催し、参加した多くの加盟組合の役員が運動方針の進捗確認や、各加盟組合が抱える課題について意見交換をおこないました。

◆第2回総対話

第26回定期大会で議案として審議する「運動の中間まとめと補強」の議論状況について説明し、意見聴取をおこない、参加者から活発な意見や質問が出されました。

「労働環境の向上」については、賃金調査の用語や項目の整理について、総実労働時間短縮にむけた加盟組合の取り組み状況の共有、秋闘、春季生活闘争の要求水準を会社側に説明する際の根拠資料の必要性などについて意見が出されました。

また、年間休日数の増加と所定労働時間の短縮、賃金水準と生産性指標など、各加盟組合が会社との交渉を進めるうえで必要となる情報や視点についても意見が出されました。

「組織の拡大」に関しては、未組織企業への取り組み状況、企業内では組合員範囲の拡大、非正規雇用で働く仲間への対応などについて意見が交わされました。特に、地域性や企業規模、経営側の意識によって組織拡大の進め方に課題感があることや、概念や必要性の理

解にとどまらず、具体的な行動につなげていくための支援を求める声が寄せられました。また、「組織の強化」の観点では、ブロック活動や交流機会の充実、三役以外の執行部が参加できる機会を求める意見や、加盟組合の執行部が相談できる窓口の設置などについても意見が出されました。日頃の組合活動を進める中で、サービス連合へ加盟している実感を高めることや、他の加盟組合の取り組みから学ぶ機会的重要性を改めて認識しました。

「政策の実現」に関しては、地域政策への取り組み強化、観光産業における人財不足、外国人労働者への対応、宿泊税導入に伴う現場での課題などの意見が出されました。加盟組合単独では取り組むことが難しい課題に対し、サービス連合としてどのように取り組み、加盟組合の組合員にその意義をしっかりと伝えていくかという点も、今後の重要な課題として共有しました。

今回の総対話での意見を踏まえて、中央執行委員会にて「運動の中間まとめと補強」について議論を進めて定期大会で提案します。

◆第3回学習会

今年度3回目の学習会には、多くの加盟組合の役員が参加しました。今期の運動方針では「産業内のコンプライアンスにむけた取り組み」として広くコンプラ

ぐためには、担当者個人の意識や責任感に頼るのではなく、複数人で確認する仕組みづくりや、定期的な点検、役員間での情報共有が重要であることを確認しました。

後半は、組合員が不正に関与する状況を防ぐための対策について、グループにて討議し、全体で意見交換をおこないました。

今回の学習会を通じて、組合会計の適正な管理は、組合員からの信頼を守るための重要な取り組みであること、苦労した点②今後の組合活動について確認し、加

◆第4回業種別交流会

第4回業種別交流会では、2026春季生活闘争について振り返るとともに、参加に際して事前に実施したアンケート内容の全体共有をおこないました。①春季生活闘争について工夫した点、苦労した点②今後の組合活動について確認し、加

盟組合の取り組み状況や課題を、今後自身の活動に活かせるように意見交換をおこないました。

2026春季生活闘争の振り返りでは、賃金改善や一時金要求、産別最低保障賃金など、回答・合意内容について共有しました。また、総実労働時間の短縮や時間外労働の縮減にむけた取り組みでは、公休日数の増加や所定労働時間の短縮、フレックスタイム制、年次有給休暇の取得状況などについて意見交換をおこないました。労働条件に関しては、人事制度やシフトリブ休暇(病気のための有給休暇)、出張旅費の見直しなど、各職場の実態に即した課題が挙げられました。さらに、春季生活闘争全体

の進め方や組合員への方針共有、オルグ活動、組合員範囲の拡大、来春闘へのつなげ方などについても共有しました。その他、夏期制服や身だしなみルール、繁忙手当、人材確保・育成、労働組合の統合など、各加

盟組合が直面している幅広い課題について意見交換をおこないました。

また、中部ブロックと関西ブロックではフォワードの加盟組合を対象とした業種別交流会を開催しました。フォワードに共通する課題や職場環境、労働条件、組織運営上の悩みについて、意見交換をおこなうことができました。今年度3回目のフォワード業種別交流会では具体的な課題共有から、加盟組合が相互に学び合う機会となりました。

業種別交流会は、同じ産業で働く仲間が、日常課題や悩みを共有し、解決にむけて視野を広げる貴重な機会です。今回の交流会を通じて、加盟組合の取り組みを相互に学び、産業全体として取り組むべき課題について認識を深めることができました。今後も、加盟組合間の連携をさらに強めながら、職場実態を踏まえた運動の推進と、産業全体の労働環境の向上にむけて取り組みを進めていきます。



東日本ブロック(仙台会場)



中部ブロック



関西ブロック(フォワード)

エンパワーメント研修会を開催

6月1日に第25回目となる「エンパワーメント研修会」を開催しました。本研修会は、サービス連合が中期目標に掲げる「ジェンダー平等の取り組みによる多様性・包摂性の実現」を達成するため、その入り口となる「男女平等参画」の取り組みが加速するよう、参加者の能動的な議論への参画を通じスキルアップを図ることを目的として開催しました。



黒川伊保子氏の講演

今年度の研修会のテーマや構成について、ジェンダー平等推進委員会にて議論を重ねた結果、脳に着目した講義を設定しました。背景として、ここ数年で育児休業制度、在宅勤務やWebの活用、ハラスメント対応といった労働組合活動の見直しなど、男女ともに働きやすい、活動しやすいようハード面の環境を整える意識付けは浸透しつつあると思います。一方で、性別を代表とした属性の違いが思考のインプット・アウトプットの違いを生むのであれば、偏った属性の職場や労働組合ではどちらか一方の考えに寄ってしまう、組織のシナジー効果が生まれにくいかもしれません。その仮説に立ち、お互いの考えや価値観を尊重し、より強い組織を作る一助とするため「脳の回線の違い」について学び、考える機会が必要と考えました。

当日は、株式会社感性リサーチより黒川伊保子氏をお招きし、「職場のトリセツ」男女脳差理解による組織

力アップ講座」と題し講義をいただきました。黒川先生からは、①「話を通じない」の正体 ②対話の奥義 ③AI時代に必須のビジネスセンスの3項目についてお話しいただきました。

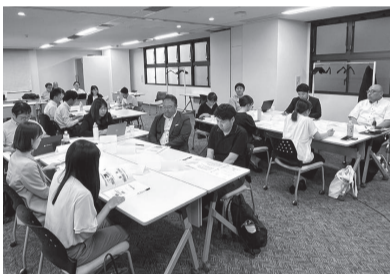
● **1 話が通じないの正体**
脳を電気回路装置として見立てると男女は同じ配線だが、とつさに身を守るために優先して起動手を、横方向・縦方向の回路が男女によって傾向が分かれる。

● **2 対話の奥義**
人の話は共感で聞く。ポジティブ・提案系な話題もネガティブ・相談系な話題も、アドバイスやダメ出しは共感の後にする。自分の話は結論から話す。言いにくい結論にはポジティブサンドイッチが有効。例えば上司への報告も『〇〇の件、ダメだったのです』ではなく『〇〇の件、アドバイスありがとうございました。結果ダメだったのでですけど、とても勉強になりました。次に必ず活かします』の方が、受け取り方が柔らかくなる。

● **3 AI時代に必須のビジネスセンス**
人はやるべきことから解放されると、脳は潜在意識の信号を強め、身体性を高める。「勉強より遊び」「働くより休む」方が脳に効く。たわいもない雑談は勘を鍛え、発想力を上げ、身体的なテクニクも向上させる脳の万能エクササイズとなる。

● **3 項目とも引き込まれる内容で、参加者が「わかる」と深く相槌を打っている姿が印象的でした。**特にAIにはない身体性を保持しているという点は、労働集約型産業である私たちの産業にとって、最大の強みであると感じました。

● **研修会後半ではグループディスカッションをおこないました。**黒川先生の講演を受けて、組合・職場・家庭を振り返りました。参加者からは「まさに妻から仕事先の人間関係の話をされるけど、ダメ出しからしていた！自分の行動が間違っている」と気づいた。「組合員からの相談は横型回線であるが、執行委員会や会議では縦型を使うなど、意識して使い分けをしたらよい活動が出来そう」といった様々な意見が出され、グループディスカッションは時間が足りないほど盛況でした。参加された皆さん、お疲れさまでした！



グループディスカッションの様子

加盟組合紹介

三井倉庫エクスプレス労働組合

三井倉庫エクスプレス株式会社は三井倉庫ホールディングス株式会社とトヨタ自動車株式会社の共同出資によってそれぞれの傘下にあった三井倉庫エアカーゴとTASエクスプレスが合併し、2012年に現在の社名となりました。

事業としては国際フォワーダーとして陸・海・空のすべてをカバーする物流サービスを展開しております。国際航空運送協会(IATA)の公認貨物代理店であり、自動車、医薬品、アパレルなど、多岐にわたる分野の貨物を取り扱い、通関手続きや海外引越サービスも含めたトータルロジスティクスを提供しています。

組合活動としては、労使交渉で、組合員の実態に即した要求と、粘り強い交渉に力を入れており、特に賞与交渉においては組合員一人ひとりの具体的な「頑張り」を定量的な効果とともに集約し、経営層に直接プレゼンする形式を採用することで、組合員の努力が最大限に賞与へ反映されるよう努めています。

ユニトランス労働組合

ユニトランス株式会社は、1971年に三菱倉庫株式会社とスイスのキユーネ・アンド・ナゲル社の共同出資により設立され、2002年からは三菱倉庫の100%子会社として、航空貨物を専門に取り扱う航空貨物フォワーダーとして事業を展開しています。

現在は三菱倉庫グループの一員として、成田空港・羽田空港・中部国際空港・関西国際空港など、日本の主要国際空港に拠点を構えています。設立当初からの海外ネットワークを活用し、国内の貨物引き取りから海外指定住所への納品まで、一貫した輸送手配をおこなっています。



定期大会の様子

特に、医薬品輸送・化学品輸送・アパレル物流管理(検品・検針)、温度管理輸送といった専門性の高い分野に強みを持ち、航空貨物のスピードかつ確実な輸送サービスを提供しています。

ユニトランス労働組合は専従者を置かず、選出された10名の執行部が日々の業務と並行して組合活動を運営しています。

各プロックの分会を通じて組合員の声を直接聞き取り、アンケートなども活用しながら、組合員一人ひとりの意見を大切に、心理的安全性の高い職場環境づくりを目指して活動しています。これらの声は、会社側との協議・交渉にしっかりと反映されています。

現在は、2027年4月のユニトランスのシオップ化の実現に向けて取り組みを進めており、より働きやすい職場づくりに貢献できるよう努めています。



レクリエーションの様子

編集後記

早いもので6月が終わり、1年も折り返しの時期となりました。7月といえば七夕。今年も短冊に願いを込める時期がやってきました。織姫と彦星も物価安を願って帰ってきているでしょうか。ところで毎年、七夕の日には雨が多いと感じていらっしゃる方もいるのではないのでしょうか？これは気のせいではなく、日本の多くの地域では梅雨の影響が残ります。天候が崩れやすいからとのこと。ちなみに、七夕の夜に降る雨を「催涙雨(さいるいう)」といいます。由来は諸説ありますが、1年に1回の七夕にしか会うことの出来ない織姫と彦星が、ついに再会できた瞬間の嬉し涙から生まれる雨であるといわれています。

さて私たちサービス連合は、今月23日に「第26回定期大会」を開催いたします。サービス連合としても1期2年の運動の中間まとめなどの議案審議をおこない、活動の折り返し地点を迎えることとなります。この1年間の運動を振り返るとともに、後半1年がさらにより良い活動ができるよう、皆さんで活発な議論を繰り広げたいと思っています。

1年に1度、加盟組合の皆さんとお会いできる喜びを感じつつ、そして何より定期大会が実り多いものとなるよう、皆さんの参加とご協力をよろしく願います。



(S・N)